

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	学校プール管理事業			事業コード	0902
所属コード	203000	課等名	教育委員会学校教育課	係名	学習指導担当
課長名	大西 洋悦	担当者名	二階堂 聡	内線番号	7338
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	将来を担う次世代の育成	コード	1
	基本事業	幼稚園・小中学校教育の充実	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 10 款 2 項 1 目 学校プール管理事務（006-01） 一般会計 10 款 3 項 1 目 学校プール管理事務（006-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 不明年度
根拠法令等 (H26)	平成 13 年 8 月 28 日，文部科学省学校環境衛生の基準改定			

(2) 事務事業の概要

学校プール薬品を購入し，水質を適正に管理する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

文部科学省学校環境衛生の基準を満たし，安全で衛生的な環境で水泳の授業を行うため実施したものである。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

児童生徒の数は減少しているが，体育の授業時数自体は減少していない。今後も継続が必要な事業である。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

盛岡市内の小中学校のプール

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 盛岡市立小中学校のプール個数	個	60	60	61	60	60
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

- ・委員会で学校ごとに予算を配分し、各学校で計画的に薬品を購入した。
- ・各学校では、学校薬剤師と連携のもと、適切に学校プール用薬品を投入し水質を管理した。
- ・水泳シーズン中に２回水質検査を行った。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 薬品投入校数	校	60	60	61	60	60
B 水質検査(定期)実施回数	回	120	120	120	120	120
C 水質検査(再検査)実施回数	回	4	5	2	0	0

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

快適な環境で水泳の授業をとり進めるためにプールの水質管理を行う。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 水質に異常が発生しなかった学校	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	校	60	60	59	60	59
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円					
	②県	千円					
	③地方債	千円					
	④一般財源	千円	9,017	9,246	9,128	9,737	9,690
	⑤その他()	千円					
	A 小計 ①～⑤	千円	9,017	9,246	9,128	9,737	9,690
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	25	25	25	25	25
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	100	100	100	100	100
計	トータルコスト A+B	千円	9,117	9,346	9,228	9,837	9,790
備考							

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

安全で衛生的な環境で水泳の授業を行えることは、健康で逞しい子どもの育成に結びつく。

② 市の関与の妥当性

義務教育の教育課程に位置づけられた授業内容であり、税金を使って環境を整えることは妥当である。

③ 対象の妥当性

児童生徒数が減少しても、稼動プールの個数を減らすことはできない。

④ 廃止・休止の影響

教育課程に位置づけられている水泳の授業ができなくなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

こまめな見回りや薬品の早期投与などにより、水質異常の発生を未然に防ぐことが可能である。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

教育課程に位置づく授業の実施であり、受益者負担は考えられない。

(4) 効率性評価

- ・水質の衛生面や児童生徒の安全性を第一に考えると節減できない。
- ・事業推進のための薬剤費及び人件費であり削減できない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	子どもの教育の充実	コード	17
	小施策（推進項目）	小中学校教育の充実	コード	17-1

(2) 改革改善の方向性

こまめな見回りや薬品の早期投与などを行う。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

特に問題はない。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

プールの水質の維持・管理のために必要な事業であり，現状維持が妥当である。